

当館所蔵の

マンモスゾウ臼歯化石

～北海道開拓記念館の特別展で公開されます！～

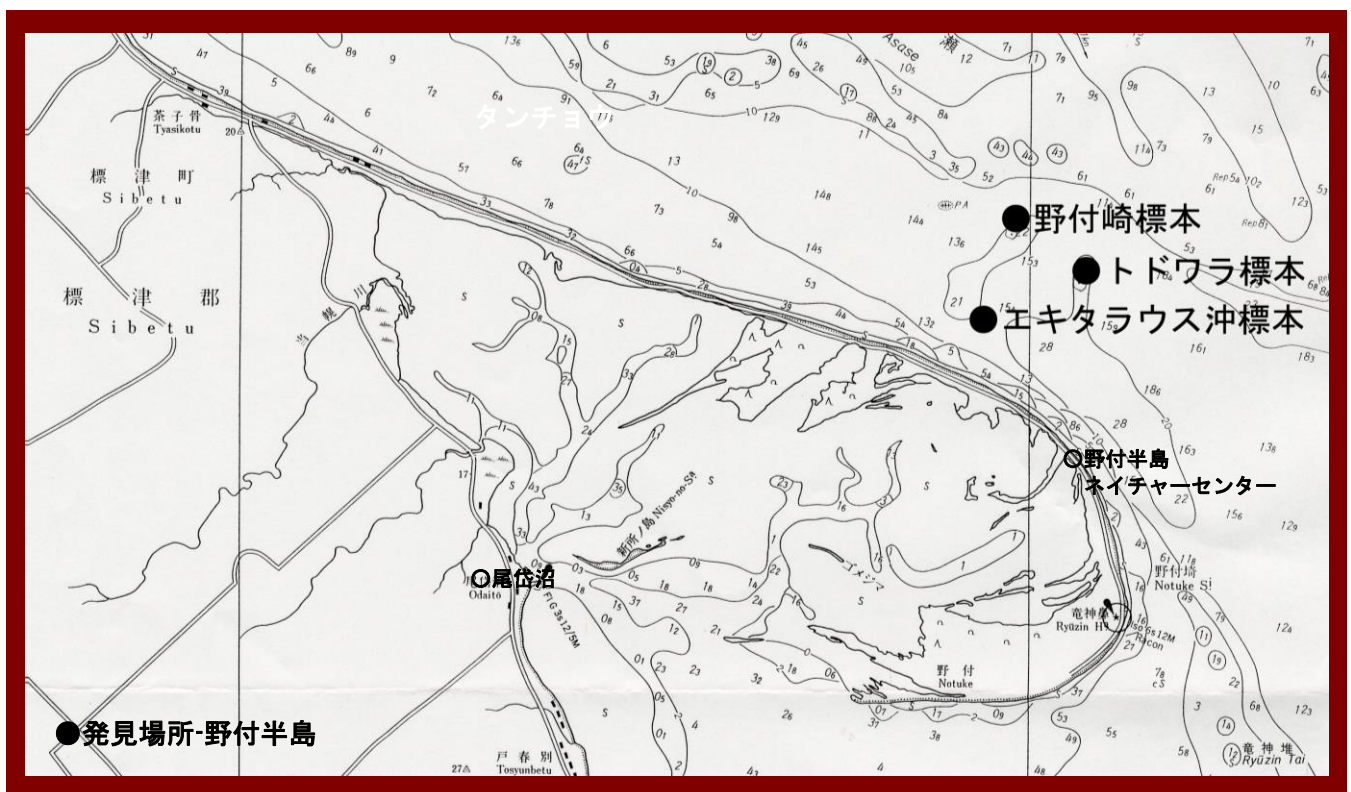
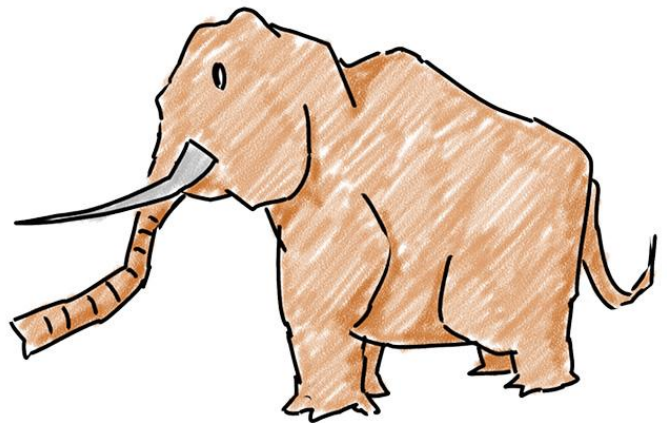
日本で発見されているマンモスゾウ臼歯化石は12個体あります。その内3個体が野付半島沖から発見され、郷土資料館に展示されているということは、あまり知られていないのではないでしょうか？

この度、北海道開拓記念館（札幌市）で第65回特別展「北海道象化石展！」が7月3日（金）～10月4日（日）まで開催されます。当

館所蔵の「マンモスゾウ臼歯化石」も展示され、多くの人の目にふれることになりました。この他、たくさんのゾウの化石が展示されるそうですので、ぜひ、ご覧になってください。

さて、この期間中の当館にはレプリカ（複製品）が展示されます。レプリカといってもほとんど本物と見分けがつかずません。ぜひ当館にも足を運んでください。

今回はこれを記念？して、当館所蔵の3個体のマンモスゾウ臼歯化石について紹介します。





※写真は頬側面からの撮影

①野付崎標本

(右下顎第3大臼歯-約2万年前)

1981年5月、別海町尾岱沼港町の村山孟男さんが、ウニ漁時に発見。

②トドワラ標本

(右下顎第1大臼歯か第4乳臼歯)

1986年5月11日、別海町尾岱沼潮見町の中沢光弘さんが、ウニ漁時に発見。

③エキタラウス沖標本

(左下顎第3大臼歯-約4万年前)

2003年5月、別海町尾岱沼港町の村山紀世和さんが、ホタテ漁時に発見。

日本で発見されているマンモスゾウ臼歯化石は12個体あり、内11個体は北海道の陸上や根室海峡から発見されたものです。これら化石でマンモスゾウの生息年代を調べると4.5万年前～2万年前ぐらいになるそうです。

これらは氷期寒冷期にシベリアなどの大陸から渡ってきたもので、北海道と大陸が陸続きだったことを示すものです。

また、マンモスゾウなどの大形動物の移動とともに北海道に人がすみ始めたのもこのころからです。

一見ゴミのように見えるものも漁業関係者に発見されることにより、別海町や北海道に関する貴重な資料となります。

当館所蔵のものは、いずれも野付半島沖の比較的近い場所での発見となり、まだ海底に眠っているものもあるのではないのでしょうか？

参考・引用文献

高橋啓一・出穂雅実・添田雄二・張鈞翔「日本産マンモス蔵化石の年代測定からわかったその生息年代といくつかの新知見」2005 化石研究会会誌

別海町郷土資料館だより No.119

発行日 平成21年6月9日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

マンモスゾウ臼歯化石については、何度かこのたよりで紹介しています。個々の資料としても大変貴重なものですが、北海道の当時の様子や様々な事柄に対しても重要な意味をもつもので、入館者には必ず紹介しています。北海道開拓記念館では道内のゾウ化石の実物がほとんど集まるそうです。(K.I)